

「 平和と憲法 」

神戸市 匿名希望

日本国憲法第9条。僕はこの憲法のある国、日本に生まれて、本当に幸せだと思う。世界に百人九十あまりある国の中で、このような憲法を持っている国は極めて少ない。そんな中、僕はこの国に生まれた。それには何か意味があるのかも知れない。

僕の学年では昨年12月から平和学習をしている。真珠湾攻撃をはじめ、主に第二次世界大戦、太平洋戦争の映像を見たり、文章を読んだりして勉強してきた。神戸大空襲、東京大空襲、沖縄地上戦、そして広島、長崎の原子爆弾。どれも悲惨で生々しく、心が痛んだ。「何故こんなにひどいことが起こったのだろう、何故殺し合わなければいけなかったのだろう」と思った。戦争によって何もかも失ってしまった人達。見ていて、読んでいてとても辛くなった。正直、自分はこんな世界では絶対に生きてくれないと思った。そして今年の6月、修学旅行で長崎へ行った。原爆公園爆心地での平和記念式典。ここであの「地獄」が始まったんだと思い、空を見上げた。真っ青な空だった。その後行った原爆資料館。どれも目を覆いたくなるものばかりだった。溶けて曲がったビン。焦げた硬貨。そして大火傷を負った人の写真。改めて原爆の、そして戦争の恐ろしさを思い知った。戦争は人を「もの」に変えてしまう。長崎の原爆を、世界で使われた「最後」の原爆にしなければいけないと思った。

日本をほとんど壊してしまった第二次世界大戦。しかし、もしそれがなければ憲法第九条も、今の僕達の平和もなかったかもしれない。だからこそ、その時代を生きてくれた人達に感謝し、その分精一杯生きなければいけない。

第二次世界大戦が終わって六十五年。現時点で戦後一度も戦争に参加していない国はわずか七か国。その七か国の家の一国に日本が入っているのは、憲法第九条の存在が大きい。これは日本人にとって誇りに思えることだと思う。

僕はまだ平和学習を一年くらいしかしていないけれど、これは一生かけてするものだと思う。戦争について学び続けることによって、本当の平和の意味がわかるだろう。

長い間平和な日々が続き、平和があたり前になってしまっている日本。少しずつ戦争を経験した方々も減ってきている。このような状態で、いつ、何のひょうしに戦争が起こってしまうかわからない。だからこそ僕達は一生かけても戦争について学び続ける必要がある。日本の宝とも言える憲法第九条をずっと守り続けるため、今一度僕達は平和のありがたさを、心で感じとらなければいけない。なくなってしまうと有難さがわかるものもあるが、それでは遅い。手遅れになる前に日本国民一人一人が平和について考えなければいけない。憲法前文にあるとおり、僕達国民は恒久の平和を念願し、平和を愛さなければいけないと思う。